

南部支所管内 学校基本情報

(久慈町、大みか町、石名坂町、南高野町、茂宮町、大和田町、神田町、下土木内町、留町、みなと町)

1 児童生徒数

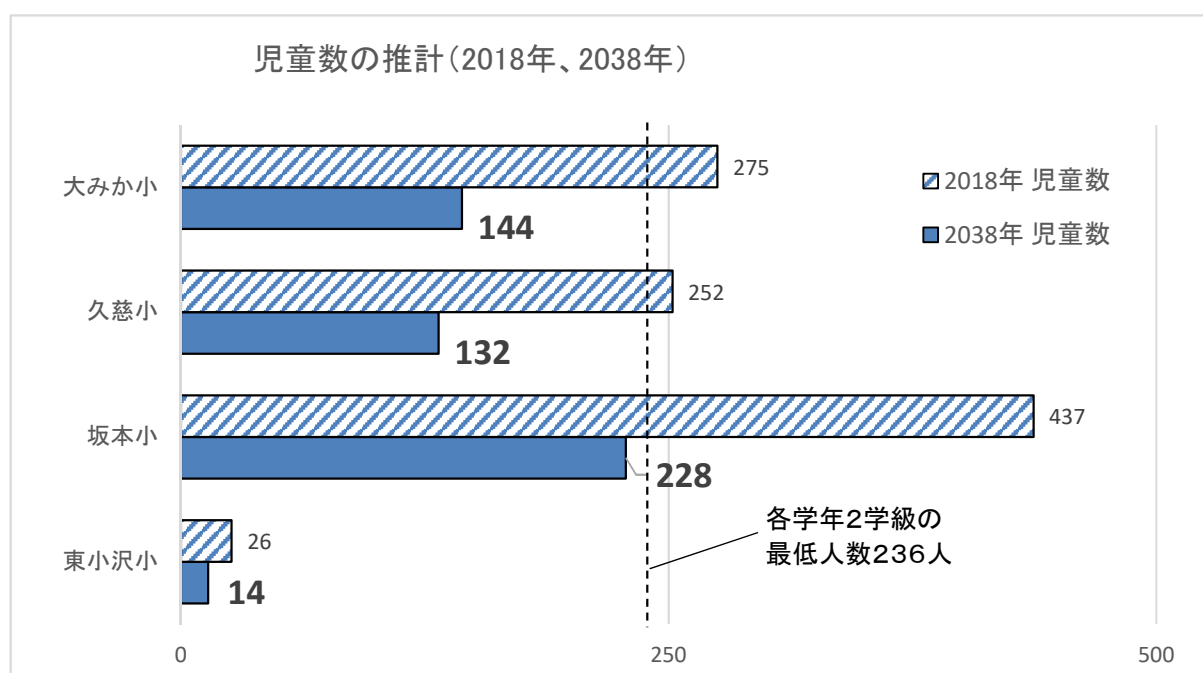
(1) 小学校児童数

ア 平成30年5月1日現在 (単位：人)

		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年	特支級	計
大みか小	児童数	35	51	36	42	38	57	16	275
	学級数	1	2	1	2	1	2		9
久慈小	児童数	31	47	51	35	41	37	10	252
	学級数	1	2	2	1	2	1		9
坂本小	児童数	64	66	72	60	88	73	14	437
	学級数	2	2	2	2	3	2		13
東小沢小	児童数	2	2	3	7	6	6		26
	学級数	1		1		1			3
計	児童数								990

イ 20年後推計 (単位：人)

大みか小	児童数	144
	学級数	6
久慈小	児童数	132
	学級数	6
坂本小	児童数	228
	学級数	8
東小沢小	児童数	14
	学級数	3
計	児童数	518



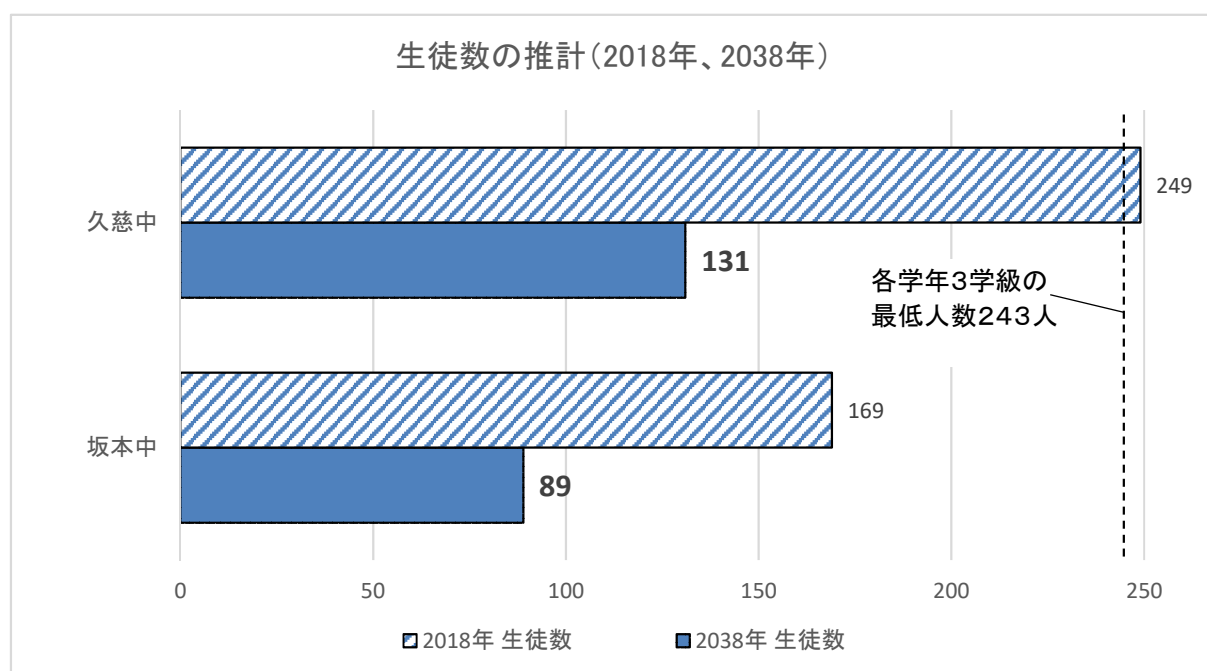
(2) 中学校生徒数

ア 平成30年5月1日現在（単位：人）

		1 学年	2 学年	3 学年	特支級	計
久慈中	生徒数	82	74	83	10	249
	学級数	3	2	3		8
坂本中	生徒数	37	64	61	7	169
	学級数	1	2	2		5
計	生徒数					418

イ 20年後推計（単位：人）

久慈中	生徒数	131
	学級数	6
坂本中	生徒数	89
	学級数	3
計	生徒数	220



2 通学

(1) 学区内の最長距離（単位：km）

小学校	道のり	地点
大みか小	1.8	A
久慈小	2.2	B
坂本小	2.9	C
東小沢小	2.5	D

(2) 自転車通学

平成30年度	人数	要件
久慈中	21	通学距離が2 km以上で東小沢小学区内の者
坂本中	0	通学距離が2 km以上の者

(3) 危険エリア

ア 津波ハザードマップ

イ 洪水ハザードマップ

ウ 土砂災害ハザードマップ

3 その他

(1) 小中学校の組み合わせ

中学校	小学校		
久慈中	久慈小	坂本小	東小沢小（前田中内を除く）
坂本中	坂本小	東小沢小（前田中内のみ）	

※大みか小は泉丘中

(2) 部活動（平成30年度）

	学級数	野球	サッカー	男子バスケ	女子バスケ	男子バレー	女子バレー	男子テニス	女子テニス	陸上
久慈中	8	○ 30	○ 34	○ 15	○ 16		○ 18		○ 35	
坂本中	5	● 9	● 24		○ 8		○ 11	○ 28	○ 23	

	学級数	男子卓球	女子卓球	男子柔道	女子柔道	男子剣道	女子剣道	吹奏楽	美術	
久慈中	8	○ 27	○ 9	○ 9		○ 10	○ 3	○ 28	○ 13	13部 247人
坂本中	5	○ 17	○ 14					○ 22		9部 156人

上段：設置の有無（○は単独、●は3年生が引退したあと、新人戦での他校との合同チーム）

下段：部員数（単位：人）

(3) 学校の校舎と敷地

（単位：㎡）

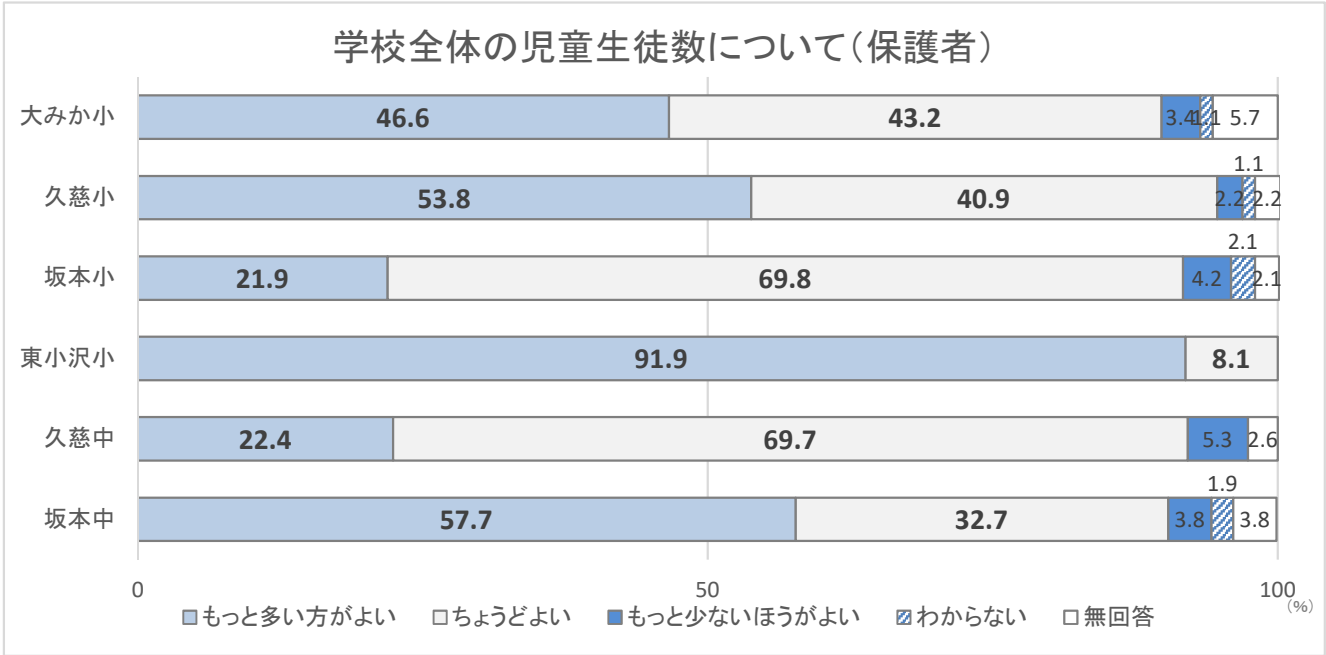
	建築年月		校舎	体育館	敷地	左のうち 運動場
大みか小	S49.3	S60.3	4,252	789	16,850	9,219
久慈小	S38.3	H31.2竣工予定	1,529	819	16,556	7,426
坂本小	S47.2	S49.5 H20.2	6,194	739	21,411	7,384
東小沢小	S50.6	S58.3	1,974	748	13,464	8,027
久慈中	S52.12	S53.12 S57.3	5,080	1,537	23,586	10,542
坂本中	S40.3	S44.3 S57.3	3,903	754	22,482	3,860

(4) 未就学児の居住状況（単位：人）

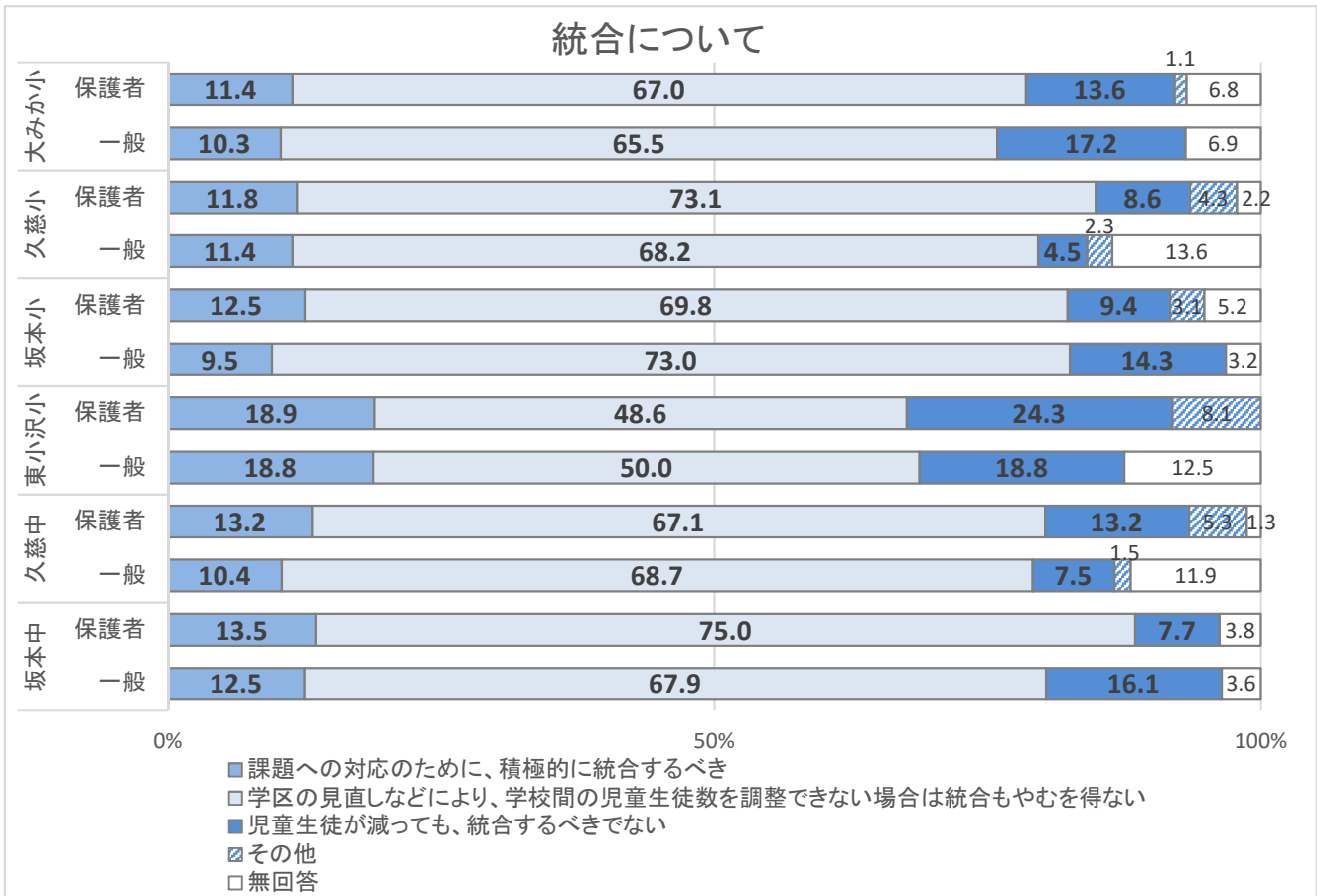
年齢	入学 年度	小学校区			
		大みか	久慈	坂本	東小沢
0	36	35	34	48	2
1	35	32	52	42	4
2	34	29	46	42	2
3	33	31	49	56	2
4	32	36	49	44	6
5	31	24	53	42	7
2024(H36) 計	児童数	187	283	274	23
	学級数	6	11	12	3
H30年度比		△32%	12%	△37%	△12%

(5) 地域の意見
ア アンケートの結果

問 あなたの世帯のお子さんが通学している学校の児童生徒数については、どのように感じていますか。



問 小中学校の小規模化への対応として、子どもたちの学習環境を整えるため学校の統合を進めている自治体があります。このような対応についてどのように考えますか。



イ 保護者懇談会での意見

①再編について

- ・クラス替えがあったほうがよい。顔触れが同じだと人間関係が固定してしまう。いろいろな人と交流が持てるように2～3学級の学校がよい。（大みか小学区）
- ・早く再編してほしい。立哨が頻繁に回ってくるし、もめる。父親に立ってほしい。（大みか小学区）
- ・子どもが坂本小から久慈中へ進学し人間関係が心配だったが、人間関係を作り直すことができ、積極的になった。クラス替えのメリットはあると思う。中学生の生活は部活動が中心。部活等のために学校を選ぶ。（坂本小学区）
- ・2クラスしかなくてさみしい。もっとたくさんの人に揉まれてほしい。直近の10年間の計画というが、もっと加速したほうがよい。（坂本小学区）
- ・分校として残すなどの方法があるのか。（久慈小学区）
- ・再編で学校が減ると選択肢が減ることになる。（いじめなどで）学区の学校に行けなくなった時に転校できる学校がなくなる。（坂本小学区）

②通学について

- ・自宅の周りは町内会がなく、登校時の見守りなども行っていない。高齢者が多く自治会が機能していないところもある。（再編に当たっては）そのあたりも考えてほしい。（大みか小学区）
- ・バスでの通学について、再編となると現実的なこととなる。バスを待つ間や車内でのトラブルなどに、どのように対応してもらえるのか。（坂本小学区）

③スケジュールについて

- ・坂本中がプレハブ校舎のままなので久慈中との合併のうわさがある。早めに知らせてほしい。（久慈小学区）
- ・いつ頃再編するのかスケジュールを知りたい。また、統合のときは、途中で転校することになるのか、統合前の学校で卒業できるのか。（坂本小学区）
- ・時間がかかるのは分かるが、叩き台でいいので市民に示しながら検討してほしい。（坂本小学区）

④その他

- ・教員として余裕を持った教育をしていきたい。教材研究の時間や職場環境も大切。（大みか小学区）
- ・子ども会がなくなり、子ども同士の校外での活動や地域との交流が減っている。学校に人数が増えるとPTAなどの保護者負担が減るので、地域とのかかわりも増えるのではないかと。地域に残りたいと思えるような学校づくりをしてほしい。（久慈小学区）

ウ 地域懇談会での意見

①再編について

- ・東小沢小は久慈中や坂本中へ行っていて、学区が崩れかけている。地域としても意識しなければならいが、そもそも変則的な学区の見直しなどは検討しているのか。（東小沢小学区）
- ・小さな学校のメリットを超える統合のメリットを示してほしい。一人一人の子どもたちを大切にして取り組んでほしい。（久慈小学区）

・クラスが少なくなるのはよくない。4年間も同じ先生に受け持たれてはたまらない。先生と合わない子どもは大変。2クラスだったのに、1人転校してしまったためにギュウギュウ詰めの1クラスになってしまうこともある。そのようなことも考えてほしい。（久慈小学区）

・世代を超えて学区に残るために、就労を含めた環境整備が必要だ。自分の子どもを見ていて、1クラスには限界を感じる。教育活動も満足にできない状態になるのは感じ取れる。（大みか小学区）

・都市計画とリンクさせた適正配置をしないと、20年後にミスマッチが起こっては後手に回る。（大みか小学区）

・複式学級の良さがあると聞くがデメリットの方が大きいと思う。「この子は乱暴だ」となったら、6年間その評価が続く。人間関係が固定化されてしまい、豊かな人間性などは望めない。少なくともクラス替えができる規模は必要だ。（南部地区）

②通学について

・東小沢小学区から久慈中に自転車で通っている子がいるが雨の日などはかわいそう。マイクロバスのようなものでいいから考えてほしい。（東小沢小学区）

・統合となった場合、路線バスもないのでスクールバスを出してもらえるのか。毎日の送迎は保護者負担が大きい。（南部地区）

③スケジュールについて

・10年後では社会情勢も変わっている。予測よりも速いスピードで子どもの数も少なくなると思う。計画を作っても見直しが必要になる。早く取り組んだ方がよい。（東小沢小学区）

・丸2年検討して計画ができて、実際に統合となるのはいつ頃か。（坂本小学校）

・とにかく早く決めてほしい。時間がかかるなら、その点についてもよく説明してほしい。（東小沢小学区）

・検討のスピードが遅い。早くしろとは言わないが、検討している間に子どもはどんどん減って小さい学校から壊れていってしまう。（東小沢小学区）

④その他

・一部の学校統合の問題ではない。学校は、特になくしたくない。コミュニティの崩壊につながると思っている。（東小沢小学区）

・小中一貫校についても考えているのか。（南部地区）

・少ない中でも協力してやっているので何とかやっていけるが、今後、少なくなっていくとPTA活動の負担が大きい。先生方も少なく、出張などがあると校長先生が授業をしていたりする。学習の進度や理解度に不安がある。（南部地区）

・東小沢小の実情を知らせたら子どもが帰ってこないかもしれない。安心感がないと住めない。（東小沢小学区）

・学校は地域の交流の場で、地域の拠点となっている。活力の元となっている。少なくなったから統合すればいいという考えはやめてほしい。（東小沢小学区）

4 基本方針から見た南部支所管内の学校数（20年後の推計値を使用）

(1) 小学校（最低必要数 236人） 1～2校

518人/ 236人 \div 2.2校

518人/ 2校=259人 259人/ 6学年 \div 44人（各学年2学級 1学級22人）

518人/ 1校=518人 518人/ 6学年 \div 87人（各学年3学級 1学級29人）

(2) 中学校（最低必要数 243人） 1校

518人/ 2=259人（小学生の半数）

259人/ 3学年 \div 87人（各学年3学級 1学級29人）

【補足】

この試算は、基本方針に示した「小学校は各学年2学級、中学校は各学年3学級」という目安からのものです。必ずしも、この校数に再編するということではありません。

(3) 学級編制（平成30年度 茨城県）

ア 小学校

（単位：人）

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計
1学級の上限	35	35	40	40	40	40	
学年2学級の必要数	36	36	41	41	41	41	236

イ 中学校

（単位：人）

	1学年	2学年	3学年	計
1学級の上限	40	40	40	
学年3学級の必要数	81	81	81	243